

おすすめします「捨て

「ボランティア」と聞いて皆さんはどのような活動を想像するでしょうか。施設での話し相手や行事の外出援助、どこかへ行って個人の方のために体を動かす活動だけが「ボランティア」というわけではありません。

今回は「捨てる前にボランティア」をテーマに、ボランティア活動をご紹介します。

捨てる前に“修理” ～おもちゃQキュー病院～

「おもちゃQキュー病院」は平成元年、厚別区が誕生した年に開院しました。年間約300個、開院から20年で合計6,000個以上のおもちゃを診てきました。13人のボランティア“おもちゃドクター”が無料でおもちゃを修理しています。（部品代が実費でかかることがあります）

“おもちゃドクター”の皆さんは、おもちゃを修理するだけではなく、そのことを通してお父さんやお母さんと共に、お子さんの“物を大切にする心”や“科学する心”が育まれることを期待しながら活動されています。

代表の大塚さんは、「ボランティアは新しいことを学ぶ機会、生涯学習の機会だと考えます。修理をすることに熱中し楽しさを感じられると共に、困ったときには相談できる仲間もいます。何より、修理し終わったおもちゃを渡したときに子どもが喜んでくれることが楽しみです。『今度は壊さないようにします』と言い、笑顔を見せる姿にうれしくなります」と話してくださいました。

★開院日時

毎週水曜日 午前10時～午後3時(祝祭日はお休み)

★開院場所

厚別区民センター 2階和室C

▼おもちゃ修理の流れ



①問診を行います。どこが動かないのか等おもちゃの状況を確認します。



②電池残量のチェックなどを行い、その場で修理できる物はその日のうちに行います。



③時間かかる場合は『入院しま証』をお渡しし、預かりします。



▲修理中の様子

捨てる前に“再利用” ～ボランティアグループつぼみ～

ボランティアグループつぼみは、平成6年の結成以来、月1回例会を行っています。結成当時から、年2回フリーマーケットに出店し、その益金を本会に寄付していただいています。品物は、会員自身が持ち寄る他に友人・知人・ご近所の方から提供していただいています。

他にも、不用になったシーツ、タオルケット、トレーナーなどを材料に清拭布づくりを行い、要望がある施設に年3回程度寄贈する活動を行っています。また、会員個々人が自宅で不用になった布を用いてお手玉を作り、30～50個のまとまった数ができあがったら、区内の高齢者施設、幼稚園、児童会館等へ届けています。